

ガーダシルの犠牲者：クリッシーさん

Crissey D Meeks 27歳 ノースカロライナ州レイリイ

2011年7月6日 SaneVax.org に寄稿されたもの



私の名はクリッシー・ミークス、27歳です。ガーダシル注射後の不可解な症状を持っている、沢山の10代の少女がいることは知っています。私の経験を、この少女たちと世界とで共有してもらいたいと思いました。みなさん、医師、両親、政治家の人たちに、毎日毎日、罪の無い犠牲者に毒が注入されているという現実を目覚めてもらう必要があります。(People, doctors, parents, and politicians need to be aware of the toxins they are pumping into innocent victims on a daily basis.)。ガーダシルが注射される前は、私は完全に普通で、若く、精力的な、活力みなぎる女性でした。それは、自分の生活を愛し、十二分に生きていたということです。私は典型的な(21歳を超えた)成人で、とても社交的で、外に出かけ、とても活動的でした。きっかけはPAP(子宮頸がん細胞診)で異常だったことでした。私の産婦人科医師はコルポスコピーをやり、処置が施されました。婦人科医に結果を聞きに行ったとき、HPVワクチン接種を受けておくことはとても利益がある、と語られたことでした。あなたも知っているように、彼女(医師)は、耳によいことばかり告げられました。どのように子宮頸がんを予防し、それはがんから自由になることで、基本的に勝利で、勝利の状況であると。

私はパンフレットを読み、人生で最悪の決定をしました。2007年5月11日、第一回目の注射を打ちました。それが腕に入るや否や、焼けるような感覚が腕から体に突き抜けるのを感じました。注射のあと、診療所をあとにし、仕事に戻りました。右腕はとても痛み、でも、腫れたり痛んだりするのは普通のことだと見なしていました。そのあと、私の人生が変わるなんて殆ど知りませんでした。私の右半身は一週間以上ひどく痛みました。右腕の注射部位に、しこりが出来ていました。

まだ、それは正常な反応だと考えて、気にしなくなりました。2007年6月8日ごろから、少し変な気分がしてきました。正確には説明できません。胃が痛く、一日中チクチクと痛く：でも私はやっていることを続けました。兄弟がインドに出発するので、9日に私の家に集まってお別れ会を行う計画していました。

何もかも慌ただしく走り回らなければなりませんでした。土曜日の朝、すべての準備を始めなければなりませんでした。私は恐怖感を感じ、あまりに痛く立ってられない程でした。とても腹が痛み、金曜日の朝から何も食べていませんでした。食欲がありませんでした。家族、友人が集まり始めました。食べ物がふんだんでした。何も食べる気になりませんでした。妹が私の食べないことに気がつきましたが、おなかがすいてないと言いました。

私は疲れて、ひどく痛んでました。次の日の朝はもっと悪くなっていましたが、日曜日なので、教会へ行くのが日課となっていました。私はこのときのことを昨日の様に覚えています。赤の袖無しのサマードレスを着て、教会へ向かいました。私の車のギアは5速で、運転して死ぬところでした。いたる所が痛くなり、うつむいて運転していました。私の頭、目、腕、脚、腹があたかもバラバラになって落ちていく感じでした。教会の椅子に座っていてもとても苦しく、バスケットのなかの捧げ物を取り出せませんでした。教会をあとにし、私たちがいつも教会の後に集まるように、母の家に行きました。母は好物のローストとレモンケーキをつくってくれましたが、だれにも一言も声をかけず、私は痛いだけで、椅子に座っていました。誰にも私をかわいそうだと思って欲しくないの、私の具合の悪いことを知られたくありませんでした。私は30分母の家に滞在して、ちょっと外に出て、あとにしました。帰るとき、さよならも言わず、何もせずに、帰りました。周りに人がいて欲しくなかったのです。そして家で独りになると、泣きました。

ドレスを脱ぐことすら出来ませんでした。ついに夜十時頃、母に電話し、どんなに具合が悪いかを話しました。母は、兄弟を呼んで私をERに連れて行こうかと言いました。しかし、そこに行ったとなると、必ず病院に連れて行かれます。私は長椅子に横になり、泣きました。

次の日の朝、痛みそのまま仕事に出かけました。同じように具合が悪いのですが、自分自身を押して行かせました。机によりかかって座り、めまいがし、ゴミのように感じていました。30分いたと思います。家庭医に電話し、その日に来るように言われました。診察室につきましたが、彼らは真に何が悪いかわかっていませんでした。彼らは何か少しでも楽になることをしてくれるだろうと思っていましたが、不幸にしてそうではありませんでした。採血して、その週は仕事を休めといわれました。結果を聞きに行きましたが、専門医（リウマチ専門医）のところにへ行けといわれましたので、そうしました。彼らは全く同じく検査をし、採血しました。もう一週間仕事を休みました。結果が出ると、彼らはLupus（全身性紅斑性狼瘡）だといいました。私は、それは私の問題だと考え（ワクチンのせいだと考えなかった）、それを受け入れました。医者は今の状態はコントロール可能（よくなる）といいました。

2007年7月19日、婦人科医のところいき、2回目の注射をしました。まだ忘れられないのですが、最初具合が悪かったのはこのせいでした。実際、同様な症状があり、今でも、これらの震えがあります。今まで、人生でこんなことは決してありませんでした。ある程度の時間をおいて、腕、脚が震え始めました。こんなことは正常ではないのですが、私はまだ無視していました。いまだに、関節痛、筋肉痛、頭痛、羞明がありますが、私は私の生活を続けようとしています。私は活動的でなく、何もしたくなく、何についても文句ばかりを言っていました。私の態度はすっかり変わりました。些細なことを忘れ、いつも怒っているように見えました。

2007年10月18日、3回目の注射。婦人科医師は夏休みで、看護婦がかわりに注射しました。ガーダシルを一方の腕に、デポをもう片方の腕に注射しました。2つを同時に射つなんてクレージーだと思いました。しかし、私は患者です。（私のような場合）一つ以上のワクチンを同時に打つのは駄目だと考えられていることは、知りませんでした。それで、今では両腕が痛みます。それでもまだ、私は決して事態を理解しようとしませんでした。

2008年12月です。私はまだ同じことをしていますが、悪くなり始めました。Lupus のせいだと思い、毎日痛みますので、医者のところへ再び行って、助言を求めました。薬が効かず、毎日ホットバスに入っています。何をやっても疲れた感じになり、フックが外れた感じです。背中が痛み、首が痛み、震え、チクチクし、頭痛がし、めまいの発作があります。しかし、医者のところへいき、いろいろな検査をし、X線写真をとりました。結果を聞きに行くと、白血球が少ないこと以外は正常だといわれました。胸の写真に何かありましたので、胸のCT検査をうけましたが、何も見いだせませんでした。医師のところへ戻され、筋肉の酵素の検査をしました。それは高値を示し、筋肉に炎症があることを示しています。白血球数は正常になり、血清鉄は少し少なめでした。それで、鉄剤を服用しています。太陽の光のもとで、すべての検査をしました。ワクチンを始めたとき、月経周期が変わり、この一年、月経がきておりません。

2008年9月以来、私の月経サイクルはメチャクチャになりました。私には怒りの感情がこみあげ、ときどき自分でコントロールできません。2007年11月5日以前の自分と、人格がすっかり変わったようです。私は誰にでも怒りを爆発させていました。誰も、私の怒りの対象から例外はありませんでした。あるとき、自分はクレージーだと思いました。私は以前のクリッシーにも戻りたいだけで、毎日頑張っているだけなのです。ときどき独りぼっちに感じました。私には何かがおかしいとわかっていますが、医者たちに、ワクチンが原因だと認めさせられないとき、次はどこに行けば良いのでしょうか。何をしたらよいのでしょうか？ そんなに大したものではなかったんですけど、人生においては、かつては幸福だったのです。

今は鬱病のようです、それから抜け出せません。心配やストレスは、時にものすごいものです。

2009年2月19日、今は、いろんなことで定期的に医者を訪れています。いまは数箇所の医師を訪れています。私はあれやこれやと診断されています。あれこれ薬を飲んでいきます。注射の前は健康で、医学的問題なんか無くて、とても活動的でした。今は、私はすっかり別人になってしまいました。膵炎と診断されています。胃と小腸に潰瘍があります。物事を忘れてしまうとき、記憶が飛んでいます。腸が永いこと動かず、食べたものが消化されません。超音波断層検査、MRIの検査を受けました。私には9歳の娘がおり、成長するのを見たいので自分を奮い立たせています。娘を見るとき、頑張れるのです。